

## 第5期 事業報告書

令和5年1月1日から 令和5年12月31日まで

一般社団法人まがたま

### 1. 今年度の総括

徹底型非営利法人への移行を念頭に、社会活動の整理と準備に要した一年で、基金を元手に災害支援キッチントラックや経費軽減のための太陽光設備導入などの設備に多額の投資となった。こうした社会活動準備のなか、災害配食に日本栄養士会様が興味を持たれ、同法人役員会において承認を得ることができたことが活動の節目となった。

決算収支の経費において、当期より事業費管理費の区分を設け、詳細科目において金額合算との差異がみられる。昨年につき「地代家賃」が目立つが、社会活動費の捻出のために収益事業にかかる事業経費であり、利益（資金）の事業間移譲を目的とするもの。災害支援配食事業を徐々に淡路多賀より大阪へ設備を移しているが、本格的に大阪での調理活動が軌道に乗れば、以降多賀においては動物保護活動へとスライド予定とする。

### 2. 事業別収支

事業	収入	支出	収益
[社会活動支援]	30,000	3,763,742	△3,733,742
災害及び配食支援	(0)	(3,597,276)	(△3,597,276)
動物愛護	(0)	(91,060)	(△91,060)
その他社会活動	(30,000)	(75,406)	(△45,406)
[収益事業]	4,908,924	3,632,580	1,276,344
私設私書箱	(4,642,497)	(3,625,633)	(1,016,864)
その他の事業収益	(266,427)	(0)	(266,427)
[事業共通]	1,398,038	3,347,823	△1,949,734
[合計]	6,337,013	10,744,145	△4,407,132
法人税等		70,000	△70,000
			△4,407,132

### 3. 各事業の概要

#### まがたま[共通]

当期は前期に引き続いて構想と準備が主な活動となり、実働にまではさほど至りませんでした。特に災害支援配食事業における試みに賛同いただける団体との関係性が築けたことにより、今後の活動に期待がかかる。発災時の栄養管理に視野を広げることにより、平時の栄養食の周知活動や社会活動に活動を広げる施策も検討。

#### [社会活動]

##### 災害及び配食支援

一昨年度に交流の機会をいただいた公益社団法人日本栄養士会との間で、災害時における活動を模索する中、同団体の役員会にて承認をいただけることになり、メニュー開発や調理工程、備蓄管理に至る流れを共に研究いただく流れが、翌事業年度より開始される。

当初は、発災時の配食を HACCAP 基準の安全安心に提供を心掛けての活動だったが、同団体と交流から栄養管理の必要性を深く感じ、より効果を深めた活動を目指すこととなった。

##### 災害支援

台風 2 号被害の海南市におよそひと月、台風 7 号災害の福知山市にひと月、その他緊急性のある災害復旧サポートに出向いての活動。

そのほか協力団体への賛助金を以下のようにサポート。レスキューアシスト 石川県地震復旧活動協賛金、ロハス南阿蘇 九州大雨復旧活動協賛金、レスキューアシスト 秋田県大雨復旧活動協賛金、レスキューアシスト台風 13 号大雨復旧活動協賛金…各 10 万の活動協賛にて支援させていただいた。

##### 動物愛護

認定 NPO 団体アークの定期的な活動支援を続ける。動物愛護の精神を学ぶとともに、非営利団体の運営も参考としております。代表のオリバーさんと庭師の方から学ぶ「大地再生」も、多くの分野で今後の活動に刺激を受けます。

災害地支援が弊社の主だった活動であるため、災害地における保護犬や預かり活動における協賛関係を築くこととなる。

##### その他の社会活動

海洋保全を目的とした清掃活動を企画運営。ゴミの排出時期や動向を確認するために、一年を通して少人数でのゴミ拾いを通しての状況確認。地域活動者とも交流があり、今後とも企画支店活動を模索。

## [収益事業]

### 私設私書箱

コロナ自粛が徐々に解消へと向かうこともあり、多少の減少も考えられたが、比較的安定的な収益状態。依然として社会問題としてのプライバシー保護より、一般家庭から事業所の開設など多義にわたる希望者が見られる。

### その他の収益事業

現時点では自販機収益が主体。配食事業の事前調理などでイベントのコラボや、保護犬里親会などイベントの催しを通してカフェ収益事業を企画。

## 4. 活動実績

(別紙)

### まとめ

配食支援活動を本格的に開始するとともに、玉造の拠点を栄養管理の周知を含む、イベントの企画運営、コミュニティ活動を通じた社会活動、事業の本格的に始動を予定。  
災害時の配食事業と栄養管理の双方で周知と支援者を広げる大切な年度と考える。